

充実コラムと私たちの想いをお届け！

目次

中野晴啓よりメッセージ.....	2
運用チームからのメッセージ.....	3-4
投資についてちょっと一言.....	4
PICK UP COMPANY.....	5
投資コラム「トレンドとサイクル」(その9)バリュー投資③.....	6
コラム「晴れ、ときどき台風」.....	7
経済エッセイストコラム「iDeCoの改正」.....	8
ご自身にあった選択肢を考える 顧客本位の相談室.....	9
セミナー情報.....	10
「ジャパンわんこフェスタ2025 inお台場」に参加します.....	11

今年から「なかの号通信」をリリースいたしました。
「なかの号通信」を通して、皆さまに社員一人ひとりの個性や普段は見えにくい『素顔』をお届けできればと考えております。
マンスリーレポートとあわせて、ぜひご覧ください。



なかの号通信



2025年10月27日撮影

中野晴啓よりメッセージ

日米の株価は史上最高値更新を続ける熱狂相場の只中にあります。とりわけ米国のS&P500やナスダックといったインデックスのけん引役はもっぱらAI関連銘柄とされる巨大ハイテク企業たちで、日本株もその様相に追随して、日経平均株価は値がさ株を中心とした特定銘柄の急騰のみで指数の上昇が説明出来る程の歪みが生じています。要するに足元の株式市場は米日どちらも実体経済の現状とはかい離して、AIイノベーションへの先行期待がひとり歩きしている状態と言えましょう。

殊に米国では、巨大IT企業間での巨額なAI向け投資競争が過熱していて、それが株価押し上げを連鎖させていますが、先行投資が創出する将来収益はまだ未知数であって、正統派長期投資家の視点では、今ある価格水準を合理的に説明することが困難と言えます。

他方日本では、高市新政権のサナエノミクス政策に対する期待が株高誘因とされますが、デフレ深耕期のアベノミクス時代とは対照的なインフレ状況下での積極財政と金利抑制政策は、長期的な国民窮乏化へのリスクをはらんでいると考えられ、もしこの先のインフレ常態社会を先取りした株価上昇だとする可能性を考慮するならば、長期投資家としては決して素直に喜ぶことが出来ません。

トランプ関税ショックによる株価急落時から半年余り。そしてこの間に見て来た株式市場の変ぼうぶりには、ジョン・テンブルトン卿の格言を思い出さずにはいられません。

「強気相場は悲観の中で生まれ、懐疑の中で育ち、楽観の中で成熟し、陶酔の中で消えて行く。」

長期投資で

生活者と社会の幸せに

貢献する

運用チームからのメッセージ(1/2)

毎月、運用チームのメンバーが徒然なるままに記述をしています。
 メッセージを通して、運用チームを少しでも身近に感じていただけると幸いです。



中野 晴啓
 代表取締役社長
 最高投資責任者
 (CIO)

4月のトランプショックを底値に、米国株式市場は最高値更新へと急速な右肩上昇。日本株もサナエノミクス期待で日経平均株価は5万円超え。その後も高値更新で世間は株高フィーバー真っ盛りでしたが、我が運用チームは至って冷静沈着。ポートフォリオの長期業績予想の丹念なチェックを重ねて、調整相場で強く踏ん張る準備に余念ありません。



山本 潤
 運用部長
 チーフポート
 フォリオ
 マネージャー

病気知らずの私ですが、急に寒くなり、調子を崩しそうなときには、生レモンを絞って、はちみつ水で割って免疫を上げるようにしています。梅おかも有効です。「常時ベストコンディション!!」がわたしのモットーです。相場は乱高下の気配ですが、うちのファンドは下値に強いのでどっしりと構えています。



居林 通
 運用副部長
 シニアポート
 フォリオ
 マネージャー

AIの現在のブームは、果たしてバブルなのでしょうか？2000年のインターネットバブルの時には、赤字企業が多かったので資金がなくなるとブームが去っていったのですが、現在のAIブームは巨大IT企業が中心になって資金を出しています。すぐには崩れないように見えますが、果たしてどうなるのか注目です。



菅 淑郎
 シニアポート
 フォリオ
 マネージャー

日経平均株価が5万円を初めて突破した10月27日。日本取引所グループ様のご厚意で、ご応募いただきましたお客様とともに東証アローズ等の施設を見学いたしました。様々な証券マンの過去の思い出が詰まったこの場所はいわば、証券市場の博物館です。一般の見学も可能です。皆様もぜひ！ゆるキャラの“あろーずくん”に会いに行きましょう。



大月 天道
 ポートフォリオ
 マネージャー
 シニアアナリスト

仕事柄スーパーに行くと面白い商品がないか、商品の価格動向をチェックするために棚を眺めます。うちの近くのスーパーではコカ・コーラが500mlサイズを置かず350mlか700mlの2サイズになっていることに気づきました。競合とサイズをずらして、直接的な価格競争を避ける取り組みは興味深いなと思いました。



穂山 美知太郎
 シニアアナリスト

毎日のように決算や新情報が出て相場が落ち着きませんが、鳥の目で全体を俯瞰すると同時に、虫の目で部分を見つめることも重要です。個別企業の細かな所まではわからなくても、値下がりランキングや値上がりランキングを眺めて「今日は〇〇相場だな」と毎日想像するだけで、徐々に勘が冴えてきますので、オススメです。

運用チームからのメッセージ(2/2)



谷 亜矢野
アナリスト

JAPANWEEKSをご存じですか？
このイベントは、国内外の金融機関や投資家が参加し、日本の資産運用立国の実現に向けた議論や情報交換を行う貴重な機会です。私は今回で3度目の参加となりました。今年はTCW社が共催されていたKBRA社のイベントに参加し、業界プロフェッショナルのセミナーを拝聴しました。



関口 耕大
アナリスト

古来よりインフラやサービスへの投資が、社会を前に進めてきました。200年前の1825年10月末に開通した、五大湖と大西洋を結ぶ水路もその好例です。アメリカが広大な国土を活かし、世界の覇権国へと成長する重要な転換点となった「エリー運河」開削は、民間資金も活用されるなど金融の発展とも密接に結びついてきました。

運用チームメンバーがリレー形式で投稿しているnoteはこちら



投資についてちょっと一言

普通に億万長者になれる時代がくるのか

なかの資産ご意見番 房前 啓明

先日のセミナーで、米国のミリオネアの職業の多い順ランキングが紹介されていた。その中で教師が3位にランキングされていたが、日本人の教師の中で将来自分がほとんど何もせずに億万長者になれると思う人はいるだろうか？当然市場の将来はわからないが、たとえ米国株式市場と同じリターンを挙げたとしてもそう思う人はどれくらいいるだろうか？という話である。まさにその原動力が日本でいえばNISAでありiDeCoなのである。今を生きるだけでしんどい世の中というのもわかるが、将来のために今を生きるということもわすれてはならない。今を生きるのがしんどいのは多くの人も同じなのだから。それにしても、筆者は昭和36年生まれなのだが、iDeCoの改正のタイミングがいつも少しずれる。そのおかげでもう一度加入手続きが必要になるのがめんどくさいのだ。継続者には手続きを簡素にしてほしい。思い返すと、年金の受け取り開始年齢が65歳からになるのも、昭和36年生まれ（男性）からだった。やれやれである。(令和7年10月30日)



「なかの日本成長ファンド」「なかの世界成長ファンド」に組み入れている
銘柄の中から1社を取り上げご紹介します。

PICK UP COMPANY



シニアポートフォリオマネージャー 菅

コスモス薬品（証券コード 3349）

コスモス薬品は、現在34期連続で増収を続けており、2025年5月期には連結売上高が1兆円超えを果たした大手ドラッグストアチェーンです。

源流は1973年に宮崎県延岡市で5坪の小さな「宇野回天堂薬局」。その後、九州のみならず、徐々に東へ進出し、他地域でも多店舗展開を進めました。ここ数年は、新商勢圏と位置付ける関西、中部、関東の3地域への出店を加速させています。この12か月で店舗数は96増え、9月末現在では1,624店舗となっています。

一般的にドラッグストアは、コンビニのように都市部街角に立ち並び、近年は合併によって看板が変わることも多いですが、同社は異なります。1993年、創業者の宇野正晃氏は将来の大手法廃止を見越して、「ディスカウントドラッグコスモス」という大型店直営のフォーマットを考案し業界に後発参入しました。合併や提携をせず、「コスモス・ウェイ」を貫き、オーガニックな成長を続けています。

同社のビジネスモデルは、「小商圈をターゲットとしたメガドラッグストアを多店舗展開し、圧倒的なシェアを獲得する」というものです。具体的には、商圈人口8千人程度の小さな地域に限定して「安くて、近くて、便利なドラッグストア」を出店しています。

ドラッグストアとしての専門性を持ちつつ、コンビニと同様の小商圈をターゲットに、価格はディスカウントストア並みの「Everyday Low Price」戦略を取っています。

コンビニや食品スーパーに対抗するため、医薬品・化粧品に加え、日用雑貨や生鮮品を除く食品の品揃えを充実させています。一般食品の売上構成比が6割以上と、他の大手ドラッグストアに比べて高いのが特徴です。また、商圈を小さく設定することで、多店舗展開がしやすいというメリットもあります。毎日安い価格を継続することで消費者からの信頼を得ることを重視し、日替わりや時間帯別の特売、ポイントカードは実施していません。また、コストを可能な限り抑えて低価格を実現するため、クレジットカードや電子マネーも取り扱っていません。

地域の人々の健康促進にも力を入れています。「まちの無料健康相談所」であるという認識のもと、店舗にご来店いただくお客様が健康で健やかに暮らせるための情報提供を積極的に行っています。医薬品の販売資格である登録販売者試験に合格できるように、正社員に限らずパート従業員にも教育プログラムを整備しています。

15年連続顧客満足度・ドラッグストアチェーンNo.1*を維持しつつ、店舗運営・物流に関するあらゆる効率化によるコストダウンも価格に反映させて、ディスカウンターとしての集客力につなげ、プライスリーダーシップを握っています。

*出典：公益財団法人日本生産性本部 サービス産業生産性協議会 JCSI（日本版顧客満足度指数）調査結果より

「トレンドとサイクル」(その9)バリュー投資③

今回は、会社経営における重要な3要素「ヒト(人材)、モノ(製品・サービス)、カネ(資金)」が、第二次世界大戦が終結した1940年代から戦後80年間の日本および代表的企業の発展・成長と、株式投資における企業評価の視点・尺度において、どのように影響してきたのかについて見ていきたいと思います。

まず、企業の付加価値(=存在意義:「パーパス」とは何でしょうか？

社会に対して魅力ある製品を提供する、社会的ニーズに応えるサービスを提供する、といった社会への貢献性と存在意義を発揮することは言うまでもなく、その目的を継続する為に必要な使命感、持続性、一体感など、目には見えない、数値では確認されない、組織におけるマインドやモチベーションが醸成され継承される独自の強み・仕組みがあるということが必要になります。従って、競争力・収益性が高い製品やサービスからの儲けがどれだけあるのか、ということだけでなく、どれほどユニークで強みのある付加価値を顧客・取引先・株主などのステークホルダーに提供出来るのか、というヒトや組織の持続可能性の評価が近年重要視されるようになってきています。

前者は「財務価値」(会計上の資産評価)、後者は「非財務価値」(市場付加価値)と区分されます。前者には3要素のうち「モノ」と「カネ」が大きく影響してきましたが、後者は「ヒト」の要素が重要なので、結局3者の総合的な評価が求められるようになりました。

後者はさらに、人的資産、知的資産、社会関係資産などにより構成されて、これらを市場が評価する「のれん(=無形資産プレミアム)」で勘案する、というのが企業評価の新しい動きとなっています。

第二次世界大戦に敗北した日本の戦後は、20世紀初頭からの重工業化により1940年代までに国内・在外に蓄積した資産・設備をほとんど失ったゼロ水準から、復興・再建・成長が始まりました。まず牽引役となったのは、戦前から民間や軍部や研究所で生まれ継承されてきた科学技術を活かした、民間需要に応える家庭電化製品(=例えばソニー)、二輪車(=例えばホンダ)、自動車(=例えばトヨタ)などでした。これらは日本を代表する国際的な優良企業となり、産み出される新製品は高度成長と豊かな生活を象徴する、世界市場で評価されるハイテク製品群でした。従って、これらの企業を評価するには、主力事業・製品の売り上げ・利益の将来の予想から現在の価値に割り戻した財務分析的な「モノ」と「カネ」の定量評価で事足りていました。

高度成長時代が終焉した1990年代からの30年間では、企業に求められる社会的な役割や存在意義は多様化し、従業員や地域社会やステークホルダーとの共生が求められるようになりました。その為に注目されてきたのが人的要素、知的要素、社会関係要素なので、これらの評価は従来は定性評価で留まっていたのを定量的な評価(=市場での付加価値)で加味しなければならない、というマインドチェンジが起きています。



田淵 英一郎

野村証券投資信託委託(現野村アセットマネジメント)に1978年入社、資産運用業務に47年間従事。企業調査アナリスト5年、ファンド運用17年、資産運用マネジメント業務17年、監査業務8年などを経験。野村アセット執行役員株式投信運用部長、野村ファンド・リサーチ常務取締役、みんかぶ(現ミンカブ・ジ・インフォノイド)常勤監査役などを歴任。

2024年7月より、なかのアセットマネジメント株式会社常勤監査役。

美術検定2級、城郭検定2級修得。

(次月号に続く)



▶ 企業の付加価値

- ① 「財務価値」
- ② 「非財務価値」

▶ 「非財務価値」

- ① 人的資産
- ② 知的資産
- ③ 社会関係資産
- ④ その他無形資産

これまでの「トレンドとサイクル」はこちらからご覧ください。
※マンスリーレポート3月~5月、なかの号通信6~10月号に掲載



1992年日興投資信託入社(現 日興アセットマネジメント)、海外ファンド等のファンド運用を担当。2003年ベアリング投信投資顧問にてファンドマネージャー。その後、2006年-2023年までUBSウェルスマネジメントにてリサーチヘッド。
2023年12月なかのアセットマネジメントにてなかの世界成長ファンドポートフォリオマネージャー。



晴れ、 ときどき台風

～期待値の正体～

株式市場は常に期待値に基づいて動いています。逆に言えば過去の数字には捕らわれず、将来を見つめていることとなります。この期待値というものは何で、どのように測ればよいのでしょうか？一般的には将来の業績予想に対して何倍の株価で取引されているかを示すPER(株価収益率)で見ると良いと考えています。例えば、PERが10倍であれば、予想される業績の10年分の株価で取引されており、20倍であれば、20年分の株価で取引されていることになるわけです。

問題は、その企業の将来の業績が5年とか10年後には非常に大きく上昇するだろう、と投資家が考えた時には、今後1-2年後の業績予想に対しての株価倍率であるPERでは適切に期待値を測れないことです。

いまアメリカを中心に起きているAIブームでも投資家の将来の業績に対する期待値が高まっています。そのためPERで見ると50倍であるとかそれ以上のPERが付くことがあります。つまり投資家は1-2年先の業績に対して株価をつけているのではなく、5-10年先に業績が大きく伸びる、ということ为前提に株価をつけていることとなります。問題は、その確からしさが現時点では判定が難しいことです。

AIは素晴らしい技術ですが、それが現在の企業の業績をどの程度引き上げるのかは現時点で判定するのは難しいです。よって、ある投資家が「10年後には利益は10倍になる」と信じて非常に高いPERまで株価を買い進んでもそれを一概に否定も出来ません。買いが買いを呼ぶというのも期待値が上がってゆく時の特徴です。

しかし、株価に対する期待値というのは、一人の投資家のみでは作れないものです。それは我々が日々接するニュースによって作られると考えています。ニュースを読んでいると足もとのトレンドがいかに力強いのか、今後の社会を大きく変え得るのか、どれほど多くの企業が参入し始めているのか、など、「これは凄いことになりそうだ」と感じさせる見出しが多く目に入ってきます。つまり、株価を押し上げる期待値の正体は、投資家の想像力によって作り出されるのですが、その基になるのは日々のニュースフローです。

つまり、投資家の期待値の急激な上昇というのは、現在であればアメリカのメガIT企業が巨額の設備投資を行う計画であるとか、資金をある企業に提供するとか、新しいビジネスをAIで行うなどのニュースから作られていると思います。

これらの期待値の大きな上昇は5-7年に一度くらいでいろいろな分野で起きます。その期待値の上昇が2年以上続くことは極めてまれです。株式市場は期待値で形作られています。あまりにも楽観的な期待値には中止が必要で、逆にあまりにも悲観的な期待値には逆にプラスの可能性を考えた方が良いのではないのでしょうか。



日本経済新聞「相場を読む 日本株、政治リスクは「買いの好機」」にインタビューが掲載されました。

iDeCoの改正

会社員の年金が有利に増える選択肢

これまでのコラムでは、資産づくりの柱として、NISAやiDeCoといった税制優遇制度の活用をお勧めしてきました。そのiDeCoが2027年1月に大きく改正されます。主な変更点は次の2つです。

1. 掛金拠出限度額が引き上げられます

現在、企業年金に加入している会社員の場合、iDeCoと企業年金をあわせた拠出限度額は月5.5万円で、そのうちiDeCoは月2万円までが上限です。これが2027年1月からは、合計で月6.2万円まで拠出できるようになり、iDeCoの上限額も撤廃されます。

また、企業年金のない会社員は、月2.3万円から月6.2万円に、自営業者やフリーランスなど国民年金の第1号被保険者は、月6.8万円から月7.5万円に引き上げられます。

		現行	改正後の掛金上限額
国民年金の第1号被保険者	自営業者・フリーランス・学生	月6.8万円 ※国民年金基金または国民年金付加保険料と合算	月7.5万円 ※国民年金基金または国民年金付加保険料と合算
国民年金の第2号被保険者	会社員（企業年金なし）	月2.3万円	月6.2万円
	会社員（企業年金あり）	月5.5万円ー（企業型確定拠出年金掛金、確定給付企業年金などの掛金相当額）※月2万円が上限	月6.2万円ー（企業型確定拠出年金掛金、確定給付企業年金などの掛金相当額）※上限撤廃
	公務員		
国民年金の第3号被保険者	国民年金の第2号被保険者に扶養されている20歳以上60歳未満の配偶者の方	月2.3万円	月2.3万円

参考：iDeCo公式サイト | iDeCo（イデコ）をはじめまでの4つのポイント、財務省 | 令和7年度税制改正の大綱を基に、なかのアセットマネジメント作成

2. 加入可能年齢が70歳未満に引き上げられます

現行制度では、第1号被保険者と第3号被保険者は60歳未満、第2号被保険者は65歳未満が上限です。これが改正後は、いずれも70歳未満まで加入可能となります。

今回の改正は、特に企業型DCの加入者にとって大きなメリットがあります。これまで月2万円だったiDeCoの上限が大幅に拡大されたことに加え、掛金は全額が所得控除の対象となるため、節税効果のメリットが大きくなります。企業によっては、企業型DCの掛金拠出を60歳までと設定していることがありますが、60歳以降も会社で働く場合、企業型DCの代わりにiDeCoで積み立てを続けることが可能になります。

これらの制度改正により、年金の受け取り方の選択肢も増えます。例えばiDeCoに70歳まで加入・運用し、その後90歳までの20年間分割して受け取れば、実質的に「終身年金」に近い形で資産を取り崩せます。

70歳までiDeCoに加入するための条件は、iDeCoに加入または運用指図者であったこと、老齢基礎年金、iDeCoの老齢給付金を受け取っていないことなどの条件があります。老齢基礎年金を受け取っていないことは、つまり、「繰り下げ受給」をすることです。「繰り下げ」は、基礎年金と厚生年金は、別々に行うことができます。厚生年金を受け取っていてもiDeCoは70歳まで加入することができます。

受け取り時期を工夫して控除枠の範囲内に収めれば、税負担や社会保険料を抑えつつ、手取りを増やすことも可能です。

※こちらのコラムは、隔月（2か月に1回）のペースでお届けしてまいります。



井戸 美枝 CFP®、社会保険労務士。
講演や執筆、テレビ、ラジオ出演などを通じ、生活に身近な経済問題をはじめ、年金・社会保障問題を専門とする。国民年金基金連合会理事。「難しいことでもわかりやすく」をモットーに数々の雑誌や新聞に連載を持つ。
『私の老後のお金大全』（日経BP社）『知らないと増えない、もらえない妻のお金新ルール』（講談社）『ゼロ活～お金を使い切り、豊かに生きる！』（扶桑社）など累計刊行96万部。

今日から始める、老後の資産づくり

「自分が将来もらえる年金額は？」「結局、老後資金はいくら必要？」「足りない分を増やすために今から何をしたらいい？」――。

いち早く備えたい20代30代から、老後不安が現実味を帯びてきた40代50代まで、すべての現役世代の疑問と不安に答える超実践的ガイド。5年に1度の年金制度改正にも対応。

「新著」



顧客本位の相談室

多くの方にご利用いただいています！

2025年5月に「顧客本位の相談室」が開設されてから、半年が経過しました。
みなさまから、たくさんのご質問をお寄せいただいております。

これまでにいただいたご質問の中から、
特に多かったものを厳選してご紹介いたします。



よくあるご質問

なかのファンドの購入方法などについて

-  なかのアセットのファンドは、どのように購入すればよいでしょうか？
-  一括購入と積立購入にはどのような違いがありますか？
-  新しいNISA制度を活用して積立を始めるべきかどうか、
また、すでに保有している投資信託はどのように扱えばよいでしょうか？
-  アクティブ型のファンドと、債券を含むファンドでは、
どのようなリスクやメリットの違いがあるのでしょうか？
-  なかのアセットが大切にしている投資哲学や運用方針は、
他社と比べてどのような特徴がありますか？



こんなこと聞いていいのかな？と思うことでも、
まずご相談ください。一人で悩まず、一緒に解決していきましょう。

ご相談お待ちしております♪



担当：高野 具子
(FP資格保有)

【お申し込み方法】 ※ご相談料は無料です。

①お電話の場合

03-3662-1401

[受付時間]9:00-17:00

(土日・祝、年末年始は除く)

②お申し込みフォームの場合



YouTubeも公開中♪





セミナー情報

◆11月セミナースケジュール◆

日付	時間	地域	概要	会場
11月9日(日)	10:00~11:30	茅場町	NISA初心者向けセミナー<NISA口座の移管の流れとポイント>	FinGATE KAYABA
11月11日(火)	19:00~20:30	銀座	50代・60代向け金融セミナー いまから始める、老後の資産形成 ~生き方が変わるとき、お金の考え方も変えてみよう~	時事通信ホール オンライン配信
11月22日(土)	10:00~12:30	茅場町	マンスリー運用報告会 <アライアンス・バーンスタイン 特別対談企画!>	FinGATE KAYABA
11月22日(土)	10:30~12:30	青森	満員御礼 新NISAの活用で資産形成 ~長期・積立・分散投資がもたらすメリット~	AOMORI STARTUP CENTER
11月24日 (月・祝)	9:30~11:30	北海道	株価乱高下の時代の資産づくりとは! 今から準備する長期投資の心構え	北海道新聞帯広支社 大会議室

\告知/マンスリー運用報告会 <アライアンス・バーンスタイン 特別対談企画!>

ALLIANCEBERNSTEIN × なかのアセットマネジメント

マンスリー運用報告会
 <アライアンス・バーンスタイン特別対談企画!>

日時 11月22日(土) 10:00-12:30
 会場 【東京】FinGATE KAYABA
 参加費 無料

運用副部長 居林 通
 運用部長 山本 毅
 AB エリック・リー 氏

今回のマンスリー運用報告会では、アライアンス・バーンスタイン (AB社) のシニア・インベストメント・ストラテジストであるエリック氏をお招きし、運用チームメンバーとのトークセッション形式で実施いたします！
 当日のプログラムでは、AB社のエリック氏より、その投資哲学や長期的な構造的成長を見抜く戦略についてお話しいただきます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております！

日時：2025年11月22日(土) 10:00 ~12:30
 定員：80名(先着順)

詳細・お申し込みは
[こちら](#)



Follow me!

セミナーやイベントの詳細な情報は随時当社の公式HP・SNSでご案内しております。
 アカウントをフォローしていただくことで、最新情報をいち早くご確認いただけますので、ぜひご登録ください。



お知らせ

「ジャパンわんこフェスタ2025 inお台場」に参加します🐶

2025年11月22日(土)～24日(月・祝)に開催される「ジャパンわんこフェスタ2025inお台場」に、弊社ファンドの取扱い金融機関である広田証券株式会社様よりご招待をいただき、同社のブースにて一緒させていただくこととなりました。ペットとヒトがともに過ごす特別な一日を、ぜひこの秋、お台場で体験してみませんか？皆さまのご来場をお待ちしております！



当日、ブースにお越しいただくと愛する家族との生活コストを可視化できるシミュレーションが行えます！



イベントの主催・お問い合わせ先はこちら



『なかの号通信』読者アンケート

いつも『なかの号通信』をお読みいただき、ありがとうございます。
読者の皆さまのご意見・ご感想は、今後の紙面づくりにとって何よりのヒントになります。
今月の『なかの号通信』の中で一番よかったコンテンツやご意見・ご感想などございましたらお聞かせください！
また『なかの号通信』で今後取り上げてほしいテーマや関心のある話題も募集中です。
皆さまのお声を、より良い誌面づくりに活かしてまいります！

こちらよりご協力をお願いします👉



最後までお付き合いいただきありがとうございました。来月号は12/5発行予定です。

≪当資料をご利用にあたっての注意事項等≫

- 当資料は、なかのアセットマネジメント株式会社の役職員ならびに関係者の方々から皆様へ、「メッセージ」の発信を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。また、銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。お申込にあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。
- 当社の投資信託は信託報酬等の費用がかかります。
- コメントの内容は過去の市場環境、運用実績および投資行動であり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではありません。
- 当情報は発行者の許可なく転載、第三者への提供は禁止します。

【発行】なかのアセットマネジメント株式会社（設定・運用を行います）

【金融商品取引業者】関東財務局長（金商）第3406号

【加入協会】一般社団法人投資信託協会、一般社団法人投資顧問業協会

【お問い合わせ先】電話番号：03-3662-1401 9:00～17:00（土日祝日、年末年始を除く）

<https://nakano-am.co.jp/> ホームページからもご覧になれます